Yamamoto S, Tsujii M, Sugiyama T, Takei N, Mori N. Decreased serum levels of adiponectin in subjects with autism. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2010 Jan 13. [Epub ahead of print]

2. Maekawa M, Iwayama Y, Arai R, Nakamura K, Ohnishi T, Toyota T, Tsujii M, Okazaki Y, Osumi N, Owada Y, Mori N, Yoshikawa T. Polymorphism screening of brain-expressed FABP7, 5 and 3 genes and association studies in autism and schizophrenia in Japanese subjects. J Hum Genet. 2010 Feb;55(2):127-30. Epub 2010 Jan 8.
3. Miyahara, Motohide; Ruffman, Ted; Fujita, Chikako; Tsujii, Masatsugu. How Well Can Young People with Asperger's Disorder Recognize Threat and Learn about Affect in Faces?: A Pilot Study. Research in Autism Spectrum Disorders, v4 n2 p242-248 Apr-Jun 2010
4. Nakamura K, Sekine Y, Ouchi Y, Tsujii M, Yoshikawa E, Futatsubashi M, Tsuchiya KJ, Sugihara G, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Suda S, Sugiyama T, Takei N, Mori N. Brain serotonin and dopamine transporter bindings in adults with high-functioning autism. Arch Gen Psychiatry. 2010 Jan;67(1):59-68.

国内

1. 神谷美里・吉橋由香・宮地泰士・永田雅子・辻井正次　高機能広汎性発達障害児を対象とした「不安のコントロール」プログラム作成の試み　小児の精神と神経　50(1), 71-81, 2010/3
2. 谷伊織・吉橋由香・神谷美里・宮地泰士・野村香代・伊藤大幸・辻井正次　抑うつと特性不安から見た小中学生の精神的健康の構造的検討. 精神医学, 52(3):265-273, 2010/3

＜書籍＞

1. 林 陽子・辻井 正次　子どもたちの「できること」を伸ばす--発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(4)自分の気持ちを知る--感情理解スキルの基礎.　こころの科学(149) 136-141, 2010/1
2. 神谷美里、吉橋由香、野村香代、辻井正次　通常学級における新たな教育的アプローチの試み—“個性の理解”“感情の理解”のためのワークブックの開発　月刊生徒指導,40(1), 40-46.　2010/1. 学事出版.
3. 大隅香苗,辻井正次　子どもたちの「できること」を伸ばす--発達障害のある子どものスキル・トレーニング実践(5)困ったときにどうしたらいいかを知る--助けを呼ぶスキル. こころの科学(150) 152-158, 2010/315.
4. 田倉さやか,辻井正次　自閉症スペクトラムの概念と発達支援.　作業療法ジャーナ

ル,44(3), 186-191, 2010

5. 辻井正次　発達障害のある子どもたちの家庭と学校（2）発達障害が理解されないことで困ること.　子どもの心と学校臨床　2,　89-96.　2010/2,　遠見書房
6. 辻井正次　学校における発達障害のある子どもたちのための「あたり前の」サポート作戦.　子どもの心と学校臨床　2,　2-9.　2010/2,　遠見書房

＜主な研究助成(国の政策研究)＞

1. 厚生労働科学研究障害保健福祉総合事業　「発達障害児に対する有効な家族支援サービスの開発と普及の研究」　H19-21　主任研究者
2. 厚生労働科学研究こころの健康科学事業　「発達障害者の適応評価尺度の開発に関する研究」 H21-23　主任研究者
3. 厚生労働科学研究障害保健福祉総合事業　「強度行動障害の評価尺度と支援手法に関する研究」　H21-23　分担研究者(主任研究者；井上雅彦)
4. 厚生労働科学研究障害保健福祉総合事業　「成人期注意欠陥・多動性障害の疫学、診断、治療法に関する研究」　H21-23　分担研究者(主任研究者；中村和彦)
5. 厚生労働科学研究こころの健康科学事業　「発達障害者の新しい診断・治療法の開発に関する研究」　H19-21　分担研究者(主任研究者；奥山真紀子)

分担執筆者

井上雅彦

2007 年

＜学術論文＞

1. 宮崎光明・加藤永歳・酒井美江・井上雅彦（2007）高機能広汎性発達障害児におけるビリヤードスキルトレーニング－イメージボールを想定するトーレーニングの効果－発達心理臨床研究,13,pp93-108（兵庫教育大学　発達心理臨床研究センター）
2. 野村和代・井上雅彦（2007）被虐待児とその養育者に対する治療的アプローチについての一考察　発達心理臨床研究,13,pp79-92（兵庫教育大学　発達心理臨床研究センター）
3. 大久保賢一・井上雅彦（2007）通常学級に在籍する発達障害児の他害的行動に対する行動支援--対象児に対する個別的支援と校内支援体制の構築に関する検討　特殊教育学研究 45(1)pp35-48.
4. 大羽沢子・井上雅彦（2007）特別支援学級担任の短期研修プログラムの開発と有効性の検討－学習指導場面における教授行動と学習行動の変容－特殊教育学研究 45(2)pp85-96.
5. 高瀬夏代・井上雅彦（2007）障害児・者のきょうだい研究の動向と今後の研究の方向性発達心理臨床研究,13,pp65-78（兵庫教育大学　発達心理臨床研究センター）

＜著書・単行本＞

1. 井上雅彦（2007）特別支援教育の理論と実践　特別支援教育士資格認定協会編　上野一彦・竹田契一・下司昌一監修　金剛出版　行動面の指導［Ⅱ］指導 pp159-174
2. 井上雅彦（2007）不登校を伴う高機能自閉症児への包括的支援　行動療法を生かした支援の実際　小野昌彦・奥田健次・柘植雅義編　東洋館出版社　pp92-107
3. 井上雅彦（2007）よくわかる発達障害　小野次朗，上野一彦，藤田継道編　ミネルヴァ書房　pp104-105　pp140-141
4. 井上雅彦・井澤信三（2007)自閉症支援—はじめて担任する先生と親のための特別支援教育—明治図書
5. 中村真由美・井上雅彦（2007）アスペルガー症候群生年へのソーシャルスキルトレーニング　行動分析　大河内浩人，武藤崇編　ミネルヴァ書房　pp152-166
6. 大久保賢一・野呂文行・井上雅彦（2007）小学校での宿題提出行動の促進—集団随伴性—行動分析　大河内浩人，武藤崇編　ミネルヴァ書房　pp152-166
7. 柘植雅義・井上雅彦（2007）発達障害の子を育てる家族への支援　金子書房

＜学会発表　国内＞

1. 福永顕・宮崎光明・井上雅彦(2007)高機能広汎性発達障害者に対する社会参加支援プログラムの検討(1)－支援プログラムの作成を通して－日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
2. 古谷奈央・大対香奈子・松見淳子・井上雅彦（2007）グループ遊び場面における小学１年生の提案と共有の行動アセスメント日本行動療法学会第 33 回大会発表論文集
3. 小泉和子・井上雅彦（2007）自閉症児への３コマ漫画によるルール理解の支援－養護学校高等部におけるチームへの取り組み－日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
4. 工藤頌子・岩岡由香里・小関俊祐・井上雅彦・佐々木義和（2007）小学生を対象とした SST にセルフモニタリングを併用することの効果の検討（１）日本行動療法学会第 33 回大会発表論文集
5. 井上雅彦（2007）エビデンスに基づいた実践を我が国に定着させるための戦略　学会企画シンポジウム エビデンスに基づいた発達障害支援の最先端　日本行動分析学会第 25 回大会発表論文集 19　立教大学　東京 2007/8/5
6. 井上雅彦（2007）認知行動療法と実証（エビデンス）日本心理学会　第 71 回大会発表論文集 S11
7. 井上雅彦（2007）学校・学級支援の際に生じる諸問題をどのように行動論的に解決するか　日本行動療法学会第 33 回大会準備委員会企画シンポジウム　学級の中での特別支援教育に対する行動療法の貢献

8. 犬飼陽子・井上雅彦（2007）早期発達支援機関における発達の気になる子どもへのペアレント・トレーニング－保健所および児童通園施設のスタッフをファシリテータとしたプログラム効果の検討－日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
9. 石原広保・井上雅彦・佐々木和義（2007）問題行動に対する「チェック式機能分析シート」の作成の試み　日本行動療法学会第 33 回大会発表論文集
10. 岩岡由香里・工藤頌子・小関俊祐・井上雅彦・佐々木義和（2007）小学生を対象とした SST にセルフモニタリングを併用することの効果の検討（2）日本行動療法学会第 33 回大会発表論文集
11. 岩岡由香里・野村和代・井上雅彦（2007）自閉症者における化粧指導－集中トレーニングによる化粧スキル向上と余暇活動への発展－日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
12. 南田高典・井上雅彦（2007）行動上の問題を示す発達障害児の担任教師への e-lerning による支援効果 日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
13. 宮崎光明・福永顕・井上雅彦（2007）高機能広汎性発達障害者の対する社会参加支援プログラムの検討(2)－実践事例を通して－日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
14. 宮崎光明・井上雅彦（2007）自閉症児における歩行者用信号機のある横断歩道の横断指導 －パソコンとプロジェクタを使ったシュミレーションによる短期集中訓練－行動分析学会第 25 回大会発表論文集
15. 宮崎光明・酒井美江・井上雅彦（2007）アスペルガー症候群のある中学生に対する社会参加支援プログラムの検討（1）－アセスメントとプログラムの作成－日本 LD 学会第 16 回大会発表論文集
16. 宮崎光明・酒井美江・井上雅彦（2007）高機能広汎性発達障害のある中学生に対する社会参加支援プログラムの検討（1）日本行動療法学会第 33 回大会発表論文集
17. 森淳子・小関俊祐・加藤美朗・井上雅彦・佐々木和義（2007）応用行動分析チェックリスト教師版作成の試み　日本行動療法学会第 33 回大会発表論文集
18. 高木明日香・井上雅彦・筱更冶（2007）発達の気になる子どもの問題行動に対する教師研修の効果（1）－ABC 機能分析とストラテジーシート作成による気になる行動の変容－日本行動療法学会第 33 回大会発表論文集
19. 高階美和・犬飼陽子・井上雅彦（2007）保健センターの親子教室参加者を対象とした発達の気になる子どものペアレント・トレーニング日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
20. 酒井美江・宮崎光明・井上雅彦（2007）自閉症児における電話での応答スキル指導－条件性弁別を用いた指導の効果－日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
21. 酒井美江・宮崎光明・井上雅彦（2007）アスペルガー症候群のある中学生に対する社会参加支援プログラムの検討（2）－プログラムの実施とその効果－日本 LD 学会第 16 回大会発表論文集

22. 酒井美江・宮崎光明・井上雅彦（2007）高機能広汎性発達障害のある中学生に対する社会参加支援プログラムの検討（2）日本行動療法学会第 33 回大会発表論文集
23. 野村和代・岩岡由香里・井上雅彦（2007）自閉症者における化粧指導－動画や手順シートを用いた化粧スキル形成－日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
24. 佐野基雄・宮崎光明・井上雅彦（2007）自閉症児における時刻表の読み方指導と般化－視覚プロンプトによる指導の有効性の検討－日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
25. 佐野基雄・丸本京子・高瀬夏代・野村和代・井上雅彦（2007）アスペルガー症候群のある児童に対する頻尿改善プログラムの検討　日本行動療法学会第 33 回大会発表論文集
26. 吉池久・井上雅彦（2007）自閉症児の自己活動に対する応答言語行動の形成－視覚プロンプトのフェイデングによる午前・午後におこなった活動の弁別－日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集
27. 吉池久・井上雅彦（2007）特別支援教育における小学校担任と担任補助者との連携についての調査研究　日本 LD 学会第 16 回大会発表論文集

2008 年

＜学術論文＞

6. 安達潤・行廣隆次・井上雅彦 他　（2008）広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度(PARS)短縮版の信頼性・妥当性についての検討　精神医学 50(5),431-438.
7. 福田誠・井上雅彦　(2007) 高機能自閉症児におけるソーシャルストーリーによる行動変容－家庭場面における読み聞かせ効果の検討－.ＬＤ研究.16.1.pp84-94.
8. 古谷奈央・大対香奈子・松見淳子・井上雅彦（2008）グループ遊び場面における小学 1 年生の提案と共有の行動アセスメント.発達心理臨床研究 14,131-141.(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)
9. 加藤永歳・宮崎光明・井上雅彦（2008）PECS 適用場面における自閉性障害幼児と健常幼児のアイコンタクトおよび発声・発語行動.発達心理臨床研究 14,95-104,(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)
10. 井上暁子・井上雅彦（2008）　強いこだわりを持つ自閉症生徒に対するセルフマネージメント手続きを利用したカウンセリング　明和学園短期大学紀要 18　69-76
11. 井上雅彦（2008）自閉症療育における応用行動分析学の研究動向と支援システム.小児科臨床,61（12）,2446-2451.
12. 井上雅彦（2008）特別支援教育の課題--教育相談と支援研究の立場から（特集 特別支援教育--各地の多様な取り組みと課題）ノーマライゼーション 28(10)（通号 327),14-17,日本障害者リハビリテーション協会
13. 井上 雅彦・竹中 薫・福永 顕（2008）発達障害児支援におけるインターネットを利用

した連携システムー保護者が管理者となるコミュニティ掲示板の利用ー鳥取臨床心理研究，3-7.

14. 石坂務・宮崎光明・佐野基雄・井上雅彦（2008）広汎性発達障害児におけるマジックのスキルトレーニング--ビデオモニタリングとセルフチェックによるトレーニングの効果.発達心理臨床研究 14,79-93,(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)
15. 宮崎光明・井上雅彦（2008）自閉症児における「はさみ将棋」の指導--条件性弁別訓練と行動連鎖法を用いたルール理解の促進.発達心理臨床研究 14,143-154,(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)
16. 成田滋・井上雅彦・田杼弘行 他（2008）特別支援教育に必須な個別支援教育計画の策定に関わる校務支援システムの構築と検証.日本教育大学協会研究年報 26,169-182
17. 大久保賢一・井上雅彦・渡辺郁博（2008）自閉症児・者の性教育に対する保護者のニーズに関する調査研究　特殊教育学研究 46(1),29-38
18. 大久保賢一・井上雅彦（2008）自閉症児・者の性教的問題行動に関する保護者の意識ー親の会への質問紙調査からー　発達障害研究 30（4）,288-297.
19. 高階美和・内田敦子・犬飼陽子・井上雅彦（2008）保健センターの親子教室参加者を対象とした発達が気になる子どものペアレント・トレーニング.発達心理臨床研究 14,17-25.(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)
20. 竹田伸也・井上雅彦（2008）症例報告 動作療法が有効であった認知症高齢者の１症例 老年精神医学雑誌 19(2),234-239.
21. 酒井美江・井上雅彦（2008）不登校状態にあり家庭内暴力を呈したアスペルガー症候群のある女子生徒における家庭支援　発達心理臨床研究 14,105-118,(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)
22. 佐野基雄・宮崎光明・加藤永歳・井上雅彦（2008）自閉症生徒における授与動詞を用いた文章の助詞理解指導.発達心理臨床研究 14,119-130,（兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)
23. 重成久美・井上雅彦・山口洋史（2008）特別支援担当保育者のためのセルフチェックによる自主研修プログラムの開発-自由遊び場面における自閉症幼児との相互交渉の促進-.活水論文集，健康生活学部編 51,31-40,（活水女子大学)
24. 吉田裕彦・井上雅彦（2008）自閉症児におけるボードゲームを利用した社会的スキル訓練の効果　行動療法研究 34（3）,311-323.

＜著書・単行本＞

1. 井上雅彦（2008）家庭で無理なく楽しくできる生活・学習課題 46—自閉症の子どものための ABA 基本プログラム.学研

＜学会発表海外＞

1. Aika Tatusmi,Kazuyo Nomura,Masahiko Inoue,Masatugu Tsujii(2008)Parent Training for Parents of a Child with Asperger's Syndrome and High functioning Autism.8th Pacific Regional Congress of International for Group Psychotherapy and Group Processes.P1-19.
2. Masahiko Inoue(2008)Teacher Training and Consultation Program using Internet for Children with Developmental Disabilities. Association for Behavior Analysis 34th Annual Convention#294-15

＜学会発表国内＞

1. 有島ひとみ・石坂務・宮崎光明・森淳子・福永顕・井上雅彦（2008）自閉症児におけるカードを用いたじゃんけんの勝敗理解の指導日本特殊教育学会第46回大会発表論文集，鳥取
2. 小泉和子・井上雅彦(2008)広汎性発達障害児における絵によるルール理解の支援－コンサルテーションによる支援効果の検討－日本特殊教育学会第46回大会発表論文集，鳥取
3. 井上雅彦・大羽沢子・猪子秀太郎・梅川康治・真城知己（2008）特別支援教育のための応用行動分析学の適用日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集，鳥取 準備委員会企画シンポジウム
4. 石坂務・宮崎光明・佐野基雄・井上雅彦(2008)高機能自閉症生徒におけるウクレレ指導－視覚支援を用いたコード指導とメトロノームを用いたリズム指導－日本特殊教育学会第46回大会発表論文集，鳥取
5. 松井恵子・井上雅彦（2008）スキルブック・セルフチェックシートを活用した SST 日本 LD 学会第17回大会発表論文集，476，広島
6. 宮崎光明・井上雅彦（2008）自閉症児における信号のない交差点の横断指導－「止まれ」の白線表示を弁別刺激とした左右確認行動の形成－日本特殊教育学会第46回大会発表論文集，鳥取
7. 宮崎光明・酒井美江・井上雅彦（2008）発達障害のあるきょうだい間のトラブルに対する親支援プログラムの検討（2）－トラブルの減少と親の心理面の変化－日本 LD 学会第17回大会発表論文集，610，広島
8. 西谷淳・多賀谷智子・田村弘行・福西隆弘・丹羽登・竹林地毅・井上雅彦（2008）IT を活用した発達支援の情報共有　日本 LD 学会第17回大会発表論文集，213，広島 自主シンポジウム
9. 酒井美江・宮崎光明・井上雅彦（2008）発達障害のあるきょうだい間のトラブルに対する親支援プログラムの検討（1）－トラブルの減少と親の心理面の変化－日本 LD 学会第17回大会発表論文集，608，広島
10. 佐野基雄・宮崎光明・石坂務・井上雅彦（2008）高機能自閉症生徒における入試面接

トレーニングービデオモニタリングとセルフチェックによるフィードバックを用いた指導効果の検討ー.日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集，鳥取

11. 相本広幸・井上雅彦（2008）発達障害児の問題行動におかえる行動契約法を用いた校内サポートチームの取り組みと成果.日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集，鳥取
12. 上田暁史・石坂務・小泉和子・古谷奈央・酒井美江・宮崎光明・井上雅彦（2008）不登校状態にあるアスペルガー障害児への支援経過 日本 LD 学会第 17 回大会発表論文集，440，広島
13. 渡部匡隆・岡村章司・安達潤・井上雅彦・衛藤裕司・小林重雄（2008）広汎性発達障害への治療教育の展開（２）－社会性の障害とその支援を中心に－日本特殊教育学会第 46 回大会発表論文集，鳥取自主シンポジウム

2009 年

＜学術論文＞

1. 井上雅彦（2009） 自閉症に対するエビデンスに基づく実践を我が国に定着させるための戦略　行動分析学研究 23(2), 173-183
2. 井上雅彦（2009）自閉症における応用行動分析学からのアプローチとそのエビデンス 精神療法・心理社会療法ガイドライン　精神科治療学 24.増刊号 306-307
3. 井上雅彦（2009）発達障害のある子どもが集団のルールで動けるために 児童心理 63(18), (906) 100～105
4. 井上雅彦（2009）広汎性発達障害のある子どもの感情理解と表現への支援 児童心理 63(7), (895)　663～667
5. 井上 雅彦, 大羽 沢子, 猪子 秀太郎, 梅川康治 , 真城知己 （2009）特別支援教育のための応用行動分析学の適用 ：子どもと教師が変わる効果的な研修プログラム(準備委員会企画シンポジウム 5,日本特殊教育学会第 46 回大会シンポジウム報告） 特殊教育学研究　46(5), 332
6. 渡部 匡隆 , 岡村 章司 , 安達 潤 , 井上 雅彦 , 衛藤 裕司 , 小林 重雄　2009 広汎性発達障害の治療教育プログラムの展開(2)：社会性の障害とその支援を中心に(自主シンポジウム 15,日本特殊教育学会第 46 回大会シンポジウム報告）　特殊教育学研究 46(5), 346-347

＜著書・単行本＞

1. 井上雅彦 （2009）自閉症のある子どもの余暇活動の支援　発達障害の臨床的理解と支援　石井哲夫監修　３学齢期の理解と支援　安達潤編著 149-158
2. 井上雅彦 （2009)自閉症スペクトラムのある人に余暇スキルを教える 発達障害の臨床的理解と支援　石井哲夫監修　３学齢期の理解と支援　安達潤編著　159-165
3. 井上雅彦（2009）自閉症児の教育　冨永光昭・平賀健太郎　特別支援教育の現状・課

題・未来 ミネルヴァ書房

4. 井上雅彦（2009）心理教育的援助サービス　使える教育心理学　安齊順子・荷方邦夫 北樹出版
5. 井上雅彦（2009）広汎性発達障害に対する行動論的アプローチ　発達障害の臨床心理学　東京大学出版会
6. 井上雅彦・三田地真実・岡村章司　(2009)　子育てに生かすＡＢＡハンドブック　応用行動分析学の基礎からサポートネットワーク作りまで　日本文化科学社

＜学会発表海外＞

1. Masahiko Inoue (2009) The effects of the teacher training program for special education. Association for Behavior Analysis International 5th International Conference

＜学会発表国内＞

1. 古谷奈央・井上雅彦　2009　通常学級の担任に対する問題行動への対応に関する e-learninng 研修の効果　　第 35 回日本行動療法学会発表論文集,326
2. 小泉和子・井上雅彦　2009　ADHD 児における教室場面での問題行動の低減　　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,390
3. 井上雅彦　2009　発達障害のある不登校児童生徒への支援－支援事例を中心に－教育セッション　日本行動分析学会第 27 回年次大会,
4. 井上雅彦・井上祐紀・石川信一・石坂務・久野能弘　2009　発達障害児の二次的な障害・併存障害の臨床　　行動療法士会企画シンポジウム　第 35 回日本行動療法学会発表論文集,94
5. 井上雅彦・秦基子・野村和代・佐野基雄・石坂務　2009　行動問題に対する教育現場での効果的技法に関する文献研究Ⅰ　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,473
6. 石原広保・井上雅彦・佐々木和義　2009　問題行動に対する「チェック式機能分析シート」の小学校授業場面での効果の測定　第 35 回日本行動療法学会発表論文集,328
7. 石坂務・宮崎光明・井上雅彦　2009　特別支援学校における教員研修プログラムの開発と有効性の検討(1)　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,280
8. 宮崎光明・石坂務・井上雅彦　2009　特別支援学校における教員研修プログラムの開発と有効性の検討(2)　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,281
9. 望月昭・武藤崇・井垣竹晴・井上雅彦・山岸直基　2009　Behavioral Human Serviceology at Twenty　What is a Heart of Behavior Analysis?　　学会企画シンポジウム　日本行動分析学会第 27 回年次大会,
10. 野村和代・鈴木将文・井上雅彦　2009　強度行動障害特別処遇事業における事例報告の分析　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,475

11. 大羽沢子・井上雅彦　2009　自閉症児の人物画指導における人物画表情表現の獲得(2)　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,453
12. 酒井美江・宮崎光明・井上雅彦　2009　自閉症児における将棋のルール獲得　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,466
13. 秦基子・井上雅彦・野村和代・佐野基雄・石坂務　2009　行動問題に対する教育現場での効果的技法に関する文献研究Ⅰ　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,474
14. 梅永雄二・武蔵博文・渡部匡隆・坂井聡・服巻繁・井上雅彦　2009　自閉症の人への様々な支援アプローチ　準備委員会企画シンポジウム　日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集,47

永田雅子

2007 年

＜学術論文＞

1. 永田雅子、伊藤恵子、鈴木茜、松浦賢長　地域の母子保健活動における EPDS の活用についての検討－新生児訪問および 3 ヶ月健診時の母親の EPDS の結果をもとに－　母性衛生 48(2)　289－294, 2007

＜著書＞

1. 三科潤、渡辺とよ子、河野由美、安達みちる、側島久典、永田雅子、鍋谷まこと、平岡美依奈、大河内昌子、本間洋子、宮田広善、吉川一郎、佐藤紀子、佐藤和夫、高田哲、平野慎也、船戸正久、岡本伸彦、中村友彦　ハイリスク児フォローアップマニュアル～小さく生まれた子どもたちへの支援　厚生労働科学研究「周産期ネットワーク；フォローアップ研究」班著　三科潤、河野由美編　メディカルビュー社　2007
2. 永田雅子　保健センターでのアセスメント　森田美弥子編　臨床心理査定研究セミナ　93-102,　2007

2008 年

＜学術論文＞

1. 永田雅子、岡嶋美奈子　地域のおける広汎性発達障害児と親への早期介入の試み—親の育児支援における効果の検討－　小児精神と神経 48（2）　143-149,　2008
2. 永田雅子　周産期における心理的ケアが母親のマタニティブルーズに与える影響～10 年後の再調査から～　FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会誌創刊号　56-61,　2008
3. 永田雅子　「NICU 卒業生」の精神発達の評価法　小児科診療 9（25）　1453-1457,　2008 永田雅子　親と子の愛着形成　周産期医学 38（5）　587-590,　2008
4. 吉橋由香、宮地泰士、神谷美里、永田雅子、辻井正次　高機能広汎性発達障害児を対象とした「怒りのコントロール」プログラム作成の試み　小児の精神と神経　48（1）　52-69　2008

＜学会発表＞

1. Masako Nagata　Maternity blues and attachment to children in mothers – Reexamination ten years later　World Association for Infant Mental Health 11th World Congress　Yokohama, 2008
2. 横井優子、永田雅子　個別の配慮が必要な親子への支援と連携に向けての課題—保育所の結果を中心に　日本心理臨床学会第 27 回大会　筑波　2008

2009 年～2010 年

＜学術論文＞

1. 永田雅子　他職種との協働 - 臨床心理士　　特集明日の周産期医療への提言　周産期医学 39(9)　1282-1286　2009
2. 永田雅子　臨床心理士のこれからに向けて Neonatal Care22（12）1216-1217　2009
3. 永田雅子　“いる（Being）”ことの治療的な意味 - 2 年間の乳幼児観察を通して -　心理臨床 - 名古屋大学心理発達相談室紀要 25　（印刷中）　2010

＜著書＞

1. 永田雅子　周産期から乳幼児期の親子関係への支援　本城秀次監修　子どもの発達と情緒の障害　岩崎学術出版　95-108,　2009
2. 永田雅子　周産期の母性心理　　山中美智子編　赤ちゃんに先天異常が見つかった女性への看護　メディカ出版　62-69,　2010

＜学会発表＞

1. 永田雅子、細溝さやか　　かかわりにくい・育てにくい子どもを育てる親への育児支援教室の効果（1）　親の育児ストレスの検討　　日本小児精神神経学会第 102 回大会　名古屋　2009
2. 細溝さやか、永田雅子　かかわりにくい子どもを育てる親への育児支援教室の効果の検討（2）　一事例を通した親の心理過程の検討　　日本小児精神神経学会第 102 回大会　名古屋　2009

野邑健二

2007 年

＜学術論文＞

1. 野邑健二：アスペルガー障害と解離．精神科治療学，22(4)：381－386，2007.

＜学会発表＞

1. Kenji Nomura., Sugiyama Toshiro., Yoshikawa Toru., Kimura Hiroyuki., Arai Yasuaki., Tanaka Yuko., Kaneko Hitoshi., Murase Satomi., Honjo Shuji., 2007 August, Psychiatric problems of children in child welfare institutions in Japan. the 13th International Congress of the European Society for Child and Adolescent

Psychiatry, florence, Italy.

2008 年

＜学術論文＞

1. 野邑健二：親のメンタルヘルスーうつを中心にー．アスペハート，3：24－28，2008.
2. 野邑健二：子どもへの抗うつ薬の投与に関わる問題について．精神科治療学，23（7）：839－845，2008.
3. 野邑健二：自閉症（カナータイプ）臨床的側面，松下正明，加藤敏，神庭重信編：精神医学対話，弘文堂，東京，903－914．2008.

＜学会発表＞

1. Nomura Kenji, Tsujii Masatsugu：2008 May, Depression in mothers of children with high-functioning pervasive developmental disorders. The 8th Annual International Meeting for Autism Research, Rondon, UK.

2009 年

＜学術論文＞

1. 野邑健二：広汎性発達障害児の不登校．本城秀次監修：子どもの発達と情緒の障害，岩崎学術出版社、東京、228-239、2009.
2. 野邑健二、金子一史、本城秀次、石川美都里、松岡弥玲、辻井正次：高機能広汎性発達障害児の母親の抑うつについて　小児精神と神経，2010（印刷中）

＜学会発表＞

1. 野邑健二、天野美鈴、畠垣智恵、小倉正義、吉川徹、石川直子、小島里美、能島頼子 2009　3 歳児健診における要経過観察児童のフォローアップ研究—年少児巡回を行ってー，第 50 回日本児童青年精神医学会総会.

宮地泰士

2007 年

＜学術論文＞海外

1. Katsuhiko Nishimura, Kazuhiko Nakamura, A. Anitha, Kazuo Yamada, Masatsugu Tsujii, Yoshimi Iwayama, Eiji Hattori, Tomoko Toyota, Nori Takei, Taishi Miyachi, Yasuhide Iwata, Katsuaki Suzuki, Hideo Matsuzaki, Masayoshi Kawai, Yoshimoto Sekine, Kenji Tsuchiya, Gen-ichi Sugihara, Shiro Suda, Yasuomi Ouchi, Toshiro Sugiyama, Takeo Yoshikawa, Norio Mori. Genetic analyses of the brain-derived neurotrophic factor (BDNF) gene in autism. Biochemical and Biophysical Research Communications. 356：200-206. 2007
2. Toyoda T, Nakamura K, Yamada K, Thanseem I, Anitha A, Suda S, Tsujii M,

Iwayama Y, Hattori E, Toyota T, Miyachi T, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Kawai M, Sekine Y, Tsuchiya K, Sugihara G, Ouchi Y, Sugiyama T, Takei N, Yoshikawa T, Mori N. SNP analyses of growth factor genes EGF, TGFβ1, and HGF reveal haplotypic association of EGF with autism. Biochem Biophys Res Commun. 360(4): 715-720. 2007

＜学術論文＞国内

1. 神谷美里，宮地泰士，吉橋由香，辻井正次．感情理解および感情のコントロールプログラムの開発．脳 21 10(3): 232-236. 2007
2. 神谷美里，吉橋由香，宮地泰士，辻井正次．広汎性発達障害の行動・情緒的特徴の性差．精神医学．49(10): 1021-1024. 2007
3. 石崎優子、宮島祐、伊藤正利、関口進一郎、深井善光、永井章、宮地泰士．日本外来小児科学会ならびに日本小児精神神経学会会員の小児に対する向精神薬の処方実態調査の概要報告．小児の精神と神経．47(3): 169-172. 2007
4. 石崎優子、宮島祐、伊藤正利、関口進一郎、深井善光、永井章、宮地泰士．日本外来小児科学会ならびに日本小児精神神経学会会員の小児に対する向精神薬の処方実態調査の概要報告．外来小児科．10(2): 186-189. 2007
5. 宮地泰士，金山学．軽度発達障害に関して相談できる社会資源にはどのような施設がありますか．小児内科 2007 年 2 月増刊号 軽度発達障害 Q&A 39(2)：383-385. 2007
6. 宮地泰士，辻井正次．自閉症スペクトラムの早期診断．脳 21 10(3): 228-231. 2007
7. 土屋賢治，稲田尚子，神尾陽子，黒田美保，八木敦子，松本かおり，宮地泰士，河合正好，中村和彦，武井教使，辻井正次，森則夫．自閉症とその関連疾患の診断尺度-ADI-R と ADOS-G について-.: 脳 21 10(3): 223-227. 2007

2008 年

＜学術論文＞海外

1. Anitha A, Nakamura K, Yamada K, Suda S, Thanseem I, Tsujii M, Iwayama Y, Hattori E, Toyota T, Miyachi T, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Kawai M, Sekine Y, Tsuchiya K, Sugihara G, Ouchi Y, Sugiyama T, Koizumi K, Higashida H, Takei N, Yoshikawa T, Mori N. Genetic analyses of roundabout(ROBO) axon guidance receptors in autism. Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet. 147B(7): 1019-1027. 2008
2. Hiroko Taniai, Takeshi Nishiyama, Taishi Miyachi, Masayuki Imaeda, Satoshi Sumi. Genetic Influences on the Broad Spectrum of Autism: Study of Proband-Ascertained Twins. American Journal of Medical Genetics Part B(Neuropsychiatric Genetics). 147B: 844-849. 2008

3. Kenji Tsuchiya, Kaori Matsumoto, Taishi Miyachi, Masatugu Tsujii, Kazuhiko Nakamura, Shu Takagai, Masayoshi Kawai, Atsuko Yagi, Kimie Iwaki, Shiro Suda, Genichi Sugihara, Yasuhide Iwata, Hideo Matsuzaki, Yoshimoto Sekine, Katsuaki Suzuki, Toshirou Sugiyama, Norio Mori and Nori Takei. Paternal age at birth and high-functioning autistic-spectrum disorder in offsprong. British Journal of Psychiatry. 193: 316-321. 2008

＜学術論文＞国内

4. 石崎優子、宮島祐、伊藤正利、関口進一郎、深井善光、永井章、宮地泰士. 15 歳未満小児の心身・精神領域の問題に対する向精神薬の適応外処方の実態. 日本小児科学会雑誌. 112(6): 981-990. 2008
5. 宮地泰士, 神谷美里, 吉橋由香, 野村香代, 辻井正次. 高機能広汎性発達障害児を対象とした感情理解プログラム作成の試み. 小児の精神と神経 48(4): 367-372. 2008
6. 宮地泰士, 辻井正次. 協調運動の発達と発達性協調運動障害. 総合リハビリテーション 36(2): 141-145. 2008
7. 宮地泰士, 辻井正次. アスペルガー症候群の支援の実際. 小児科臨床 61(12): 2426-2430. 2008
8. 中村和彦, 土屋賢治, 八木敦子, 松本かおり, 宮地泰士, 辻井正次, 森則夫　成人期アスペルガー症候群の ADI-R（自閉症診断面接改訂版）による診断—生物額的研究との関連で—. 精神医学 50(8): 787-799. 2008
9. 谷合弘子, 宮地泰士, 今枝正行, 鷲見聡　自閉症スペクトラムの遺伝的基盤について—双生児４５組の調査をもとに—.小児科臨床 71(9): 1601-1605. 2008
10. 鷲見聡, 宮地泰士, 谷合弘子, 今枝正行, 石川道子, 森下秀子. 発達障害を合併したヒスチジン血症児の尿中アミノ酸分析. 小児科臨床 61(2): 271-276. 2008
11. 吉橋由香, 宮地泰士, 神谷美里, 永田雅子, 辻井正次. 高機能広汎性発達障害児を対象とした「怒りのコントロール」プログラム作成の試み. 小児の精神と神経 48(1): 59-69. 2008

2009 年～2010 年

＜学術論文＞海外

1. Maekawa M, Iwayama Y, Nakamura K, Sato M, Toyota T, Ohnishi T, Yamada K, Miyachi T, Tsujii M, Hattori E, Maekawa N, Osumi N, Mori N, Yoshikawa T. A novel missense mutation(Leu46Val) of PAX6 found in an autistic patient. 462(3): 267-271. 2009
2. Takeshi Nishiyama, Hitomi Taniai, Taishi Miyachi, Koken Ozaki, Makoto Tomita, Satoshi Sumi. Genetic correlation between autistic traits and IQ in a

population-based sample of twins with autism spectrum disorders (ASDs). Journal of Human Genetics. 54(1): 56-61. 2009

＜学術論文国内＞

1. 舟橋吉美、今枝正行、石川道子、宮地泰士　通常学級におけるクッション設置による座位援助　-学級単位での離席行動調査から-. LD 研究 18(3): 284-289. 2009
2. 石崎優子、深井善光、永井章、宮島祐、宮地泰士、大塚頌子. 小児心身医学会薬事委員会 2004~2008 年度活動報告. 子どもの心とからだ 18(2): 326-332. 2009
3. 宮地泰士. 学齢期の広汎性発達障害　小児科診療 73(4): 611-615. 2010
4. 宮地泰士, 石川道子, 井口敏行, 今枝正行, 浅井朋子. 広汎性発達障害児における不登校の発生状況とその対応について. 小児科臨床.　2010 in　press
5. 吉橋由香、神谷美里、宮地泰士、辻井正次. 高機能広汎性発達障害男児の自己の感情の認知. 小児の精神と神経 49(3): 201-211. 2009

シンポジウム5

発達障害の子どもたちの観察からわかること

市民として地域発達支援システムを利用する姿から考える；広汎性発達障害を中心に

辻　井　正　次（中京大学現代社会学部／NPO法人アスペ・エルデの会）

Ⅰ．発達障害の子どもたちのことは観察からだけではわからない

発達障害，特に自閉症などの広汎性発達障害（以下，PDD）については，発達過程のなかでの道筋から把握されるものなので，観察だけでわかることは実は多くはない。診断的な観点に立つのであれば，標準化された診断ツールを活用することは一定の意味があるであろうし，ADOSなどの活用の意義は認めるが，支援につなげていくのだとすれば，「観察」するものではないであろう。

この小論では，筆者が現在取り組んでいるPDDの子どもたちの発達支援の取り組みのなかから，いくつかの視点を提示し，小児保健のなかでの取り組みの推進を願って書かれるものである。

まず，筆者らが現在取り組んでいる自閉症スペクトラム理解のためのアプローチの概要を述べていくと，当事者団体でもあるアスペ・エルデの会の全面的な協力の下，多岐にわたる研究を推進している。

現在，筆者らが子どものこころの発達研究センターとアスペ・エルデの会などとの共同研究で取り組んでいることとしては，①生物学的基盤を明らかにするアプローチ，②脳機能上の特徴を明らかにするアプローチ，③発達特徴を明らかにするアプローチ，④臨床的な行動特徴を明らかにするアプローチ，⑤臨床的な介入のなかで特性を明らかにするアプローチ，⑥必要な社会システムを整備するための政策研究などがあげられる。

ここでは，④および⑤を中心に紹介しておきたい。

Ⅱ．行動特徴から明らかにすることができるのは？

1）広汎性発達障害の診断は特異的な行動の把握からなされる

PDDであることは，特異的な異常行動があるかどうかと，本来は定型発達の場合にはあるべき行動がないということの，両面からなされる。そうした意味で，すでに国際的な診断ツールが開発されているものの，わが国ではそれが十分に活用されていない。そればかりか，診断そのもののツールについても共同で開発するプロジェクトがなかったため，研究者間でのコンセンサスを形成することも難しい状況が続いてきた。そうした意味で，筆者らは，国際的なアセスメントツール（ADI-RやADOSなど）の日本版の作成に取り組むとともに，国内でのPDDの支援ニーズを把握するアセスメントツールを開発する研究プロジェクト（PARSプロジェクト）を行ってきた。

2）PARSプロジェクトについて

栗田　広氏を中心に，中堅のPDD研究者が集まり，PDDの支援ニーズを把握するアセスメントツールの開発を，日本財団や子ども未来財団の助成のもと進めた。日本自閉症協会版広汎性発達障害評定尺度：PARS（PDD-ASJ Rating Scales）は，PDD児者の行動理解を進め，彼らの支援を可能にしていくために，日常の行動の視点から，平易に評定できる尺度を作成することを目指して作成した。詳細は，辻井

中京大学現代社会学部　〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101
Tel：0565-46-1211　Fax：0565-46-1298

ら（2006），安達ら（2006），神尾ら（2006）を参照のこと。現在，版権はスペクトラム出版社に移行している。

i．尺度の構成

項目の選定には，８名の自閉症・PDDの臨床研究を専門とする10年以上の経験を持つ児童精神科医または発達臨床心理学者が担当し，対人，コミュニケーション，こだわり，常同行動，困難性，併発症，過敏性，その他（不器用）の８つの領域から，幼児期，児童期，思春期（成人期）の３つの年齢段階に分けて，PDDに特徴的と考えられる項目と，そうした行動があった場合に，支援の必要性や要介護度が高くなる項目を選択した。

ii．項目数

幼児期34項目，児童期34項目，思春期（以降）32項目を選んだ。そのうち，10項目は３つの年齢段階すべてに重複する項目である。14項目は幼児期と児童期で重複する項目，19項目は児童期と思春期で重複する項目であり，重複を除くと，項目総数，計57項目をPARS尺度項目として選んだ。なお，現在，開発中のPARS短縮版は，各年齢段階12項目となる予定である。評定の仕方については，項目に示された行動の見られる頻度を，なし（０点），多少目立つ（１点），目立つ（２点）の３段階評定で評価を行う。幼児期の場合は，幼児期のみを，児童期の場合は，幼児期と児童期の，思春期以降の場合は幼児期・児童期・思春期の３つの年齢段階すべての項目の評定を行う。

3）尺度化することで見えてくることがある

各項目の評価を見ていくと，例えば，「視線が合わない」というようなかなりPDDに特異性が高いとされてきた項目でも，PDDと診断された子どもでも養育者は「視線はあう」と評価することが起こる（図１）し，逆に，「道路標識やマーク，数字，文字が好きである」という項目では，PDDでなくても該当する子どももいる（図２）。しかし，尺度としてみていくと，PDDの子どもとそうでない子どもが示す行動の出現は明らかに異なる分布を示す（図３）。乳幼児健診などで，単一の項目でスクリーニングをすることは大きなリスクを伴い，PARSのような標準化された形で尺度化し，特徴的な行動全体を包括的に把握していくことがより正しい評価につながる。

PARSは，短縮版であれば15分程度で評価が可能であり，研修もコンパクトな形で実施でき，現場で実現可能な研修を行うことができる。支援の方向付けにおいては，現状の困難度から出発し，１つずつの積みあげを考える。困難度が低くなっていく段階には，発達によって１つずつできるようになっていくもの，周囲が対応を覚え，本人の困難度を高めない工夫ができていくことなどがある。

診断は，PDDの場合，非常に重要だが，診断がなくても，子育てや保育，教育のうえでの工夫は可能であり，まずは，子どもの実際の姿にあった子育てや保育，教育の工夫を始めるためにPARSは活用できる。

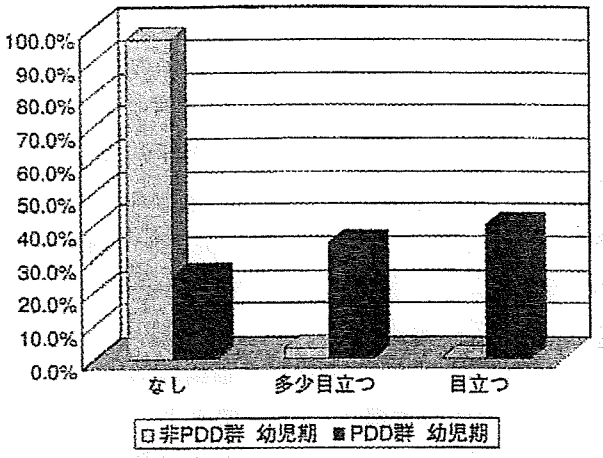

図１「１．視線が合わない」の幼児期でのヒストグラム

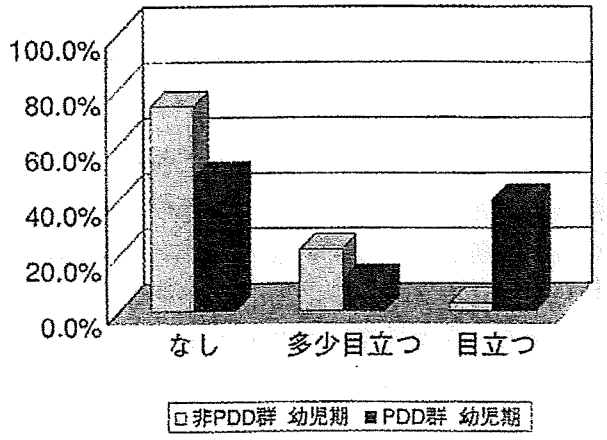

図２「13．道路標識やマーク，数字，文字が好きである」の幼児期でのヒストグラム

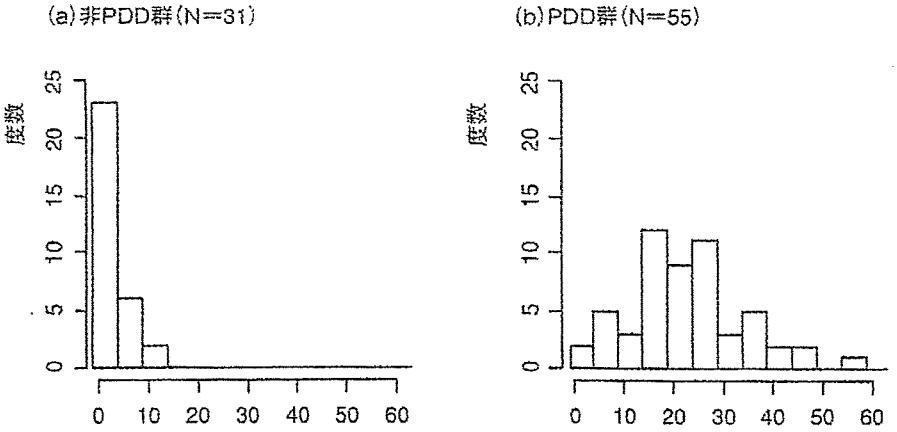

図3　PARS幼児期尺度得点の分布

Ⅲ．臨床的な介入のなかで特性を明らかにするアプローチ

アスペ・エルデの会は，家族会であるとともに，研究者たちが結集した研究プロジェクトであり，また地域発達支援システムであり，いろいろな発達支援プログラムの開発に取り組んでいる。発達支援プログラム全体のパッケージとしては，基本的には，①家族と周囲の理解を促進し，発達促進的な環境調整を図ることと，実際の発達支援への取り組み。家族支援や親教育，一般啓発などが含まれる。②本人のスキル・トレーニングの積み上げ（ソーシャル・スキルや，リラクゼーション・スキル，感情理解のスキルなど）。③自己理解スキルの積み上げとより自分らしい生活を生きること（就労支援などを含む），という，3層構造を軸に，子どもの発達段階や状態像に対応した，具体的な支援の仕方を提案できるようになってきている。

Ⅳ．日本の子育て文化と，生物学的な脆弱性をもって生まれてくること

日本の子育て文化のなかでの平均的な子育て支援や保育などにおいては，生まれながらの社会性の問題などから，文脈や他者の意図が読みにくい場合には，親子の悪循環が生じやすいようである。定型発達以外の子どもたちが存在するということ自体が，そもそもの子育て支援モデルの想定に入っていないため，多様性を想定しない支援が個性的な子どもたちに排除的に動きやすい。

現在，家族支援の例として，楽しい親子作り講座（ペアレント・トレーニング）として，ⅰ）親の会型；すでに診断を受けている場合，ⅱ）カルチャーセンター型；多様な参加者，ⅲ）地域ケア・モデル型；子育て支援として，子育て支援センターや児童センターで実施，ⅳ）療育センター型；療育に並行して実施など，多様なモデルを考えて取り組んでいる。小児保健の取り組みの場合，医療ケア・モデルを想定することのメリットとデメリットがあり，多様なモデルが並行することがユーザー側の利便性を高めることを理解しておく必要があり，小児保健の立場よりも子育て支援の立場の方が地域にフィットしていることが多い。

Ⅴ．子どもたちの「個性」にあった支援を実現するためのコンセプトとしての発達障害

発達障害かどうかという観点ではなく，支援（つまり，丁寧な子育て支援や保育，教育が必要な子ども）が子どものより生きやすく，楽しい人生を歩んでいけるかどうかという視点が必要である。そうした意味で，行政が用意している標準的な支援の仕組みに，並行した支援の仕組みが細かく張りめぐらされることが大切になるだろうと思われる。地域の生活支援のなかで，本当の意味で保健や保育が活躍できるよう，医療ケアがでしゃばらない仕組みを地域で創り出せることが重要であると考える。

文　献

1）辻井正次，行廣隆次，安達　潤，市川宏伸，井

上雅彦，内山登紀夫，神尾陽子，栗田　広，杉山登志郎：日本自閉症協会版広汎性発達障害評価尺度（PARS）幼児期尺度の信頼性・妥当性の検討．臨床精神医学，2006；35（8）：1119-1126.

2）安達　潤，行廣隆次，井上雅彦，内山登紀夫，神尾陽子，栗田　広，杉山登志郎，辻井正次，市川宏伸：日本自閉症協会版広汎性発達障害評価尺度（PARS）児童期尺度の信頼性・妥当性の検討．臨床精神医学，2006；35（11）：1591-1599.

3）神尾陽子，行廣隆次，安達　潤，市川宏伸，井上雅彦，内山登紀夫，栗田　広，杉山登志郎，辻井正次：思春期から成人期における広汎性発達障害の行動チェックリスト：日本自閉症協会版広汎性発達障害評価尺度（PARS）の信頼性・妥当性についての検討．精神医学，2006；48（5）：495-505.

高機能広汎性発達障害を持つ子どもの保護者へのペアレント・トレーニング
―日本文化のなかで子育てを楽しくしていく視点から―

川上ちひろ*　辻井正次**

抄録：この小論では，高機能広汎性発達障害を持つ子どもの保護者を対象としたペアレント・トレーニングが必要になる文化的な基盤や，実際の成人期において支援がないことで生じる課題などを検討した。日本の伝統的な子育て文化において，定型発達を前提としているため，彼らの障害特性が伝統的な子育てとのミスマッチを生じやすくさせ，そのために，改めてこうしたプログラムで認知的な枠組みの修正を行うことが必要になることを示した。その上で，実際のペアレント・トレーニングの例を紹介し，具体的な取り組みの中で何ができるのかを論じた。行動という側面から，子どもと保護者とを見直し，子どものうまくいかないところから努力できるところを見つけていくことで，実際の認知の枠組みの修正を行うことを示した。さらに，こうしたプログラムの利点について論じ，実際の研修上の配慮点に関して述べた。
精神科治療学　23(10)；1181-1186，2008

Key words：*parent trainings, high-functioning pervasive developmental disorders, cultural context, cognitive intervention, group process*

Ⅰ．はじめに
―子育ては全ての親にとって「同じ」過程ではない―

発達障害の子どもたちへの支援の中核として，保護者への障害についての理解促進のための取り組みや，実際の工夫のための「ペアレント・トレーニング」が，近年日本各地で実施され始めている。これらは応用行動分析を基本にしており，親が主体的に自分の子どもの行動を観察してアセスメントし，適切な介入ができるようになることを目的としている。主に知的障害を伴う自閉症の子，注意欠陥／多動性障害（ADHD）の子を持つ親へのペアレント・トレーニングから始まり，最近では高機能自閉症やアスペルガー症候群の子を持つ親へのペアレント・トレーニングも各地で実施されるようになってきた。

しかし，実際にこうした実践の仕方が新しい海外の方法を学ぶというスタンスであると，なかには子どもに合わないプログラム内容になっている場合もあるようである。特に，高機能広汎性発達障害などの自閉症スペクトラム（以下，ASD）の場合，ADHDの子どもと基本障害が異なるため，

Parents support programs for mothers of children with High-functioning Pervasive Developmental Disorders in Japan.
*名古屋大学大学院医学系研究科精神健康医学分野
〔〒466-8550　愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65〕
Chihiro Kawakami, MEd.: Nagoya University, Medical School. 65, Tsurumai-cho, Shouwa-ku, Nagoya-shi, Aichi, 466-8550 Japan.
**中京大学現代社会学部
Masatsugu Tsujii, MEd.: Chukyo University, Faculty of Sociology.